

令和6年8月

観測史上初38℃超えなどのニュースが連日続いた夏でした。「天気の話題が好きな日本人」とエスニック・ジョークで言われそうですが、それでも「暑いねえー」と言ってしまう日々が続きました。ただ、お盆を過ぎて風が変わってきた様な気がします。二十四節季では処暑（暑さが収まる）を過ぎました。残暑厳しいですが、頑張っていきましょう。

#### ○ 避難するときに建物のすぐ横は通らない

先月実施した防災避難訓練では、地震発生後に火災が生じたという想定でグラウンドへの避難を実施しました。消防署の方から、「お・は・し・も※」を守って素早く整然と行動し、全ての生徒が安全に避難できたことについて高い評価をいただきました。その後、いくつか指摘をいただいたのでお伝えします。

- ・避難するときには、建物のすぐ横を通らない。ガラスが割れて落ちてきたり、落下物があったりするから。
- ・学校以外で災害にあったとき、例えばホテルでは、緑色に点灯している非常灯を見つけ、そこをめざして避難すれば出口につながる。
- ・初期消火をしても、天井に燃え移ったら避難する。

※ お…推さない、は…走らない、し…しゃべらない、も…戻らない

#### ○ 災害が起こったとき、人は習慣通りにしか動けなくなる

災害時にはだれもクリエイティブにはなれない。その場で考えて、その場で判断して、適切な行動を取れるとは、まず思わないほうがいい。極度の混乱と緊張の中、せいぜい過去の習慣の延長線上でしか、行動ができなくなってしまう。これが現実です。

だからこそ、普段、どれだけ有益なシミュレーションをやっておくかが大事です。そういった日常の積み重ねが、思考停止状態になってしまう災害のときに、生き残る判断や行動を可能にします。

2001年の9月11日にアメリカ合衆国で起きた同時多発テロの際、ハイジャックされた飛行機がニューヨークのワールドトレードセンターという110階建てのビルに突っ込みました。そのとき、ビル内のある企業の社員たちは、ほぼ全員生き残ることができました。なぜかといえば、「有事を想定した避難訓練を、繰り返し行っていたから」です。逆に、これをやっていなかった企業のビジネスパーソンの多くは、逃げるどころか、そのままオフィスにとどまり続けてしまいました。優秀なビジネスパーソンたちが、なぜそんな判断・行動しかできなかったのか。

この素朴な疑問への答えが、「災害時にはだれもクリエイティブにはなれないから」です。災害が起こったとき、人は習慣通りにしか動けなくなる。訓練をしていなかった企業の人は、逃げるという意識をもてずに、どうすればいいのか分からなかったのです。

災害は必ず起きます。そのとき、自分は、あるいは自分の大切な人はちゃんと逃げられ

るか。地震が起きたとき、建物の1階にいたらどう行動すれば命が助かるのか、2階にいたらどうするのか、ガラスの破片だらけの中をどうやって避難するのか。想定や訓練をしていないと命を落とす可能性が高い。いざというときに生死を分けるのは、日頃の習慣です。学校、家、部活、外出中、どの場面で災害が起こっても対応できるようにシミュレーションを行っておいてください。

○ 宇部中央高スナップ写真アレコレ

■夏休みボランティア

今年も多くの生徒がボランティアに参加して、地域の行事を支えています。写真は左から、学童保育での英語学習、地域の夏祭り、公民館でのクッキングのボランティアの様子です。がんばってるね。



■花壇の水やり

環境委員が毎日花壇の水やりをしてくれています。ホースにもてあそばれ、水にかかりながら格闘していました。ホースという奴はなんであるにいうことをきかないのでしょうか。



■子ども食堂でのお手伝い

2年次生は探究活動の一環でSDGsに取り組んでいます。この夏、キッズラップ活動にのべ23人が参加しました。写真は西法寺のみんなや食堂の様子です。



■アンサンブルは楽しい

エリザベト音楽大学の升島先生が合唱部のレッスンに来てくださいました。アンサンブルの楽しさや発声の仕方など、やさしく丁寧に教えていただきました。



■ダンス同好会のパフォーマンス

学校説明会では来場された中学生や保護者の方に本校の部活動の様子を見学していただきました。ダンス同好会のパフォーマンスには多くの見学者がありました。



○ 訃報

8月6日の朝、山根敏夫先生が突然の病で亡くなりました。学校が大好きで、いつも朝早くから学校に来ておられました。長年にわたって山口県教育や本校のために働かれた山根先生に感謝の気持ちを届けたいです。謹んで哀悼の意を表します。

みなさんも深い悲しみと喪失感があると思います。それは当然のことです。少しでも不安があったり、話したいことがあったら、遠慮せずに先生に伝えてください。スクールカウンセラーにも頼ってください。必要な支援を求めたり、適切に他者に依存したりすることは大事なことです。悲しみを分かち合い、みんなで支え合っていきましょう。